

(広義)ばかりでなく、エゾエンゴサクやカタクリ、キバナノアマナなど早春植物の生育環境が狭

まり、これら植物は絶滅の危機に瀕しており、今後の保護が必要である。

福寿草栽培上の注意

研究のため、長年必要にかられて福寿草を栽培してきたが、株を弱らせずに栽培し続けるにはコツがあることがわかった。そのコツをお知らせします。

栽培法：開花中の株もとに厚さ約1センチの上を葉の繁っている範囲に盛る（茎の基部から新根が出るので、最も大切で必ず実行）。春の花が終わった頃と秋10月の2回肥料をまく（5寸鉢でハイポネックス0.5グラムを目安に、株の大きさに応じて）。鉢植えの場合は鉢を半分以上地中に埋める。露地植えの場合は棒などを挿し目印をつける（初夏には地上部が枯れ、一見なにも植えていないように見え、他の草花を

植えてしまうことがあるから）。

繁殖法：株分けによる方法は株が弱りやすいので、時間はかかるが種子で増やすのが良い。たね（瘦果）は成熟したらすぐ播く。土は選ばないが加湿にならないように。しかし乾燥を嫌うから必ず表面には厚さ1センチほどの腐葉を被せる。翌年雪の消えた4月に発芽する（1年目は双葉だけで枯れる）。3年ほどは植え替えない。肥料は控え目に。（本州の園芸店で売られている福寿草は野生のものとは異なり、種子をつけない園芸品種（主に福寿海）と考えて良い。北海道でも最近では園芸品が売られてきているので、野生品と混同しないよう注意）。

渡島半島(黒松内低地帯以南)の植物

原 松 次

渡島半島には、周知のように道内の他の地域とは一線を画し、東北地方の延長線上にある種類が多数あり興味深い。私は昭和60年にいたる15年間の調査で、それらのうちの69種を確認することができた。4月23日は、このうち、スライドとしてさまになる44種を紹介した。ここでは、産地と花期を含め全種を一覧表にまとめてみた。ご参考になれば幸いです。

科 名	和 名	花期、月	産 地
き く	キッコウハグマ	10	厚沢部、奥尻
	ミネアザミ	8	木古内、知内、松前
	タマブキ	9	函館、南茅部
う り	キカラスウリ	8	福島、松前、奥尻
すいかずら	スイカズラ	7	函館、七飯、大野
	オオバヒョウタンボク	4	福島、松前、奥尻
	ニワトコ	6	函館
	クサニワトコ	8	福島、松前

あ	か	ね	アカネ	8	函館、松前
			ヘクソカズラ	9	函館
			ヨツバムグラ	8	厚沢部、松前
			カワラマツバ	8	島牧
ごま	のは	ぐさ	ママコナ	8	函館、尻岸内
			サギゴケ	6	大野
し		そ	ヒキオコシ	9	函館、八雲
む	ら	さ	ホタルカズラ	5	大野、松前
え	ご	の	エゴノキ	7	戸井
さ	くら	そう	ハマボウス	8	函館、戸井、江差
や	ぶ	こう	ヤブコウジ	8	奥尻
つ	つ	じ	ウラジロヨウラク	6	大野、木古内、上の国
			サラサドウダン	6	尻岸内、南茅部
り	ょう	ぶ	リョウブ	8	木古内、戸井、尻岸内、南茅部
み	ず	き	ハナイカダ	6	函館、尻岸内、南茅部、松前
せ		り	チドメグサ	8	松前
			ヒメチドメグサ	8	函館、福島、松前
う	こ	ぎ	タカノツメ	7	戸井、南茅部
			キツタ	?	奥尻
き	ぶ	し	キブシ	4	南茅部、木古内、厚沢部、松前
ぶ	ど	う	エビヅル	8	函館、松前、上の国
			サンカクヅル	6	戸井、尻岸内、厚沢部、松前
も	ち	の	ヒメモチ	6	木古内、厚沢部、松前、上の国
			オオツルツゲ	6	厚沢部
あ	わ	ご	アワゴケ	8	松前
か	た	ば	ヒョウノセンカタバミ	5	上の国
ま		め	ホドイモ	8	大野、福島、厚沢部
			ツガルフジ	6	松前
ま	ん	さ	マルバマンサク	4	木古内、奥尻
ゆ	き	の	ヤグルマソウ	6	大野、知内、松前、奥尻
あ	ぶ	ら	ハクサンハタザオ	5	函館、尻岸内
ま	つ	ぶ	マツブサ	7	上磯、厚沢部、戸井、南茅部
つ	づ	ら	アオツヅラフジ	8	函館、松前
あ	け	び	ゴヨウアケビ	6	函館、松前
き	ん	ぼう	クサボタン	8	函館、福島、松前
			センニンソウ	8	函館、松前、大成
			サンリンソウ	6	島牧
つ	る	な	ツルナ	10	江差
い	ら	く	ミヤマイラクサ	7	函館、厚沢部、福島
			ヤブマオ	8	函館、福島
く		わ	カナムグラ	8	松前、熊石
ぶ		な	ブナ	5	木古内、厚沢部、黒松内

く	る	み	サワグルミ	6	木古内、厚沢部
ら		ん	シュンラン	6	厚沢部、奥尻
			エビネ	6	厚沢部、奥尻
			ナツエビネ	8	奥尻
			イイヌマムカゴ	7	厚沢部
ゆ		り	サルトリイバラ	6	函館、松前
			ジャノヒゲ	8	松前
			オオナルコユリ	6	福島、厚沢部、上の国
い		ね	ケカモノハン	8	江差、八雲
			ギョウギシバ	8	上磯
			チカラシバ	8	函館、福島、熊石、森
			オニシバ	8	江差、八雲
			アイアシ	8	寿都
ひ	の	き	ヒノキアスナロ	4	木古内、厚沢部、松前、江差
う	ら	ぼし	ノキシノブ	-	厚沢部
			ヒメノキシノブ	-	厚沢部
こ	け	しのぶ	ハイホラゴケ	-	厚沢部
い	わ	ひば	イワヒバ	-	黒松内、奥尻
			クラマゴケ	-	江差

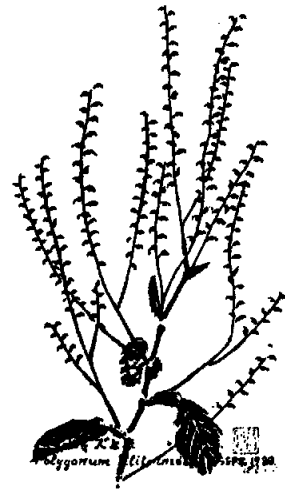
「ツタウルシと乾燥器」

(S 生)

今夏、無人のO島に発電機を持ち込み、高い文化生活を送ろうという、豪勢、かつ貧弱な調査行があった。そうであればと、N君は自慢の植物乾燥器を運び入れた。この乾燥器は、緑茂れる盛夏の植物を息つきながらも乾燥し続け、大きな威力を発揮することになった。

帰札後、N君はひどいウルシかぶれになったという。実は、広いO島の草原の中、ただ1ヶ所でお出合ったツタウルシに、早速仲良しになっていたN君であるが、高価な薬によってほぼ治癒していたのである。それから在宅1週間は経過している。N君が単にウルシに弱いだけではない。何か別の原因が……？

半月後、N君が綺麗に仕上げた植物標本を観察する。ところが、1葉あったツタウルシの標本には心に決めて触れない私も、その夜からひどくかぶれてしまったのである。さてさて、何か変だ!!



今思うに、2人共、植物標本を挟んだ新聞紙に触れまくっている。乾燥器によってただ一葉のツタウルシからその成分がすべての新聞紙にしみ込み、「その新聞紙」にかぶれたとしか考えられない。すなわち、薬あれば苦あり、乾燥器あればウルシかぶれ、乾燥器はO島のほんのわずかなツタウルシの存在を、強烈にアピールしたのである。